



# 妙陵

妙高市立妙高中学校  
学校だより 第23号  
平成26年5月15日

携帯電話用QRコード



## 「あいさつ」ができるのはどんなとき？

校長 鈴木 恒夫

◆私は山登りが好きで1年に何回か山に登ります。山に咲く花の美しさと頂上での爽快感がその原動力です。

登山道で他の登山者とすれ違うとき、互いに「こんにちは」とあいさつを交わします。特に「あいさつをしなければならぬ」という規則があるわけではありませんが、あいさつするととても気持ち良くなります。登山をしたことがある人なら誰でも経験があるでしょう。

普段の生活で、知らない人とあいさつを交わす場面はまずありません。たとえ顔を

知っていたとしても、話したこともない人と道で会ってあいさつしますか？

「誰とでもあいさつをしよう！」と言うほど実際は簡単ではないようです。

では、登山道で知らない人と気持ちよくあいさつができるのは何故でしょうか。

◆心理学に「パーソナルスペース(personal-space)」という用語があります。他人が近付くと不快に感じる空間(距離)のことです。一般に、親密な相手ほど小さく(短く)なり、近付いても不快感を感じません。例えば赤ちゃんとお母さんのパーソナルスペースは0cm、親しい友人は50cm位、見知らぬ人は1m以上でしょうか。だから狭い登山道で人とすれ違うときは、かなり抵抗感を感じるはずですが。

見知らぬ登山者とのパーソナルスペースを小さく(短く)しているのは、「山を愛する仲間」としての「親近感」ではないかと私は思います。そして互いにあいさつを交わすことでより良い関係を築くことができるのではないのでしょうか。

◆学校では、生徒たちによる「あいさつ運動」が行われ、校内に明るい声が響いています。学校を訪れる人からは「妙中生のあいさつはいい。」とお褒めの言葉をいただいています。学校では知らない人にも元気にあいさつできるのですが、日常生活では相手を仲間として認識した場合に限られてしまいます。

仲間として「親近感」をもつには、**活動を共にする**ことが近道だと思います。妙中の生徒会(妙陵会)は、今年度「??? (まだ内緒! 生徒総会后「HP」をご覧ください。)」というスローガンを掲げ、生徒同士、学校と地域とのつながりを大切にした取組を進めようとしています。具体的には「ボランティア活動」や「地域行事への参加」等、生徒同士や地域の皆様と**活動を共にする**取組に力を入れていきます。

◆「MOT48」・・・「モットフォーティエイト」と読みます。アイドルグループではありません。「妙中応援隊」の頭文字を取って命名した、文字通り妙高中学校を応援する組織です。隊員それぞれの得意技や趣味を生かしながら、学校の様々な活動に参加し、生徒たちを見守り、支えていただいています。

生徒にとっても地域の皆様と**活動を共にする**中で多くを学ぶことができ、とても頼もしい存在です。活動を通して学校と地域のパーソナルスペース(?)をより小さく(短く)できれば、と考えています。

現在隊員は19名です。隊の名前のように隊員数48名を目指しています。もっともっと多くの皆様の登録をお待ちしています。詳細は募集案内をご覧ください。←保護者の皆様にはPTA総会で配付、地域の皆様には「学校だより」と共に回覧しました。「HP」からご覧になることもできます。



All妙高あいさつ運動



竹の子狩り遠足(H25.6.7)

専用のベストと帽子を着用した「MOT48」隊員(左)

←保護者の皆様にはPTA総会で配付、地域の皆様には「学校だより」と共に回覧しました。「HP」からご覧になることもできます。

